

VII. 懇談会等【共益事業】

(1) 会員懇談会

会員懇談会は、全会員を対象に、大臣や閣僚・国内外の各界有識者等を来賓として招き、時宜にかなったテーマで講演と意見交換を行っている。本年度は2回の会合を開催したほか、新型コロナウイルスの影響により対面型式での実施は3年ぶりとなる、同友クラブと本会との合同の新春会員懇談会を開催した。

第1回は、8月に夏の特別企画として「将棋の魅力と奥深さをめぐって～ 日本将棋連盟 創立100周年を迎えて～」と題して、佐藤康光 九段 日本将棋連盟会長、羽生善治 九段、森内俊之 九段を招き、峰岸真澄副代表幹事による進行の下、400年の歴史を持つ日本の伝統文化としての将棋の魅力や奥深さについて座談会形式で話を伺った。

第2回は、9月に船橋洋一 国際文化会館グローバル・カウンシルチェアマン／アジア・パシフィック・イニシアティブ創設者を招き、「ウクライナ・台湾・日本—『国民安全保障国家』という形」と題して、経済安全保障を含めた国家安全保障全般について講演いただき、質疑応答を行った。

また、2月に開催した合同新春会員懇談会では、河合純一 日本パラリンピック委員会委員長を招き、「パラリンピックを通して考える共生社会」と題して講演いただき、意見交換を行った。パラリンピックの歴史や、講師自身の競技生活に基づく話を通して、「真の共生社会」の意味とその実現に向けた取り組みについて理解を深めた。

(2) 会員セミナー

会員セミナー（程近智委員長・林信秀委員長）は全会員を対象として、会員の知識の向上・知恵の醸成に貢献し、会員の資質向上を図ることにより、本会活動の活性化に寄与することを目的として活動している。

本年度は、会員のニーズや社会情勢を踏まえて、6月に「ウクライナ情勢の動向と今後の行方」と題するテーマで、廣瀬陽子 慶應義塾大学総合政策学部教授より講演いただいた。また、5月には丸山俊一 (株)NHK エンタープライズコンテンツ開発部エグゼクティブ・プロデューサーより「デジタル資本主義時代の欲望のパラドックス」と題して、映像を交えながら講演いただいた。

8月には運営委員会を開催し、本セミナーの企画・運営について協議した。その結果、対面形式は、講師から希望がある場合や明らかに望ましい場合のみとし、原則として完全オンライン形式で開催する方針を確認した。また、コロナ禍における予測不可能な状況への対応を念頭に置き、本年度は月1回の開催とし、計12回のセミナーを開催した。加えて、参加者へのアンケート結果をもとに、特にニーズが高かった海外

情勢に関するテーマを優先的に取り上げ、11月に瀬口清之（一財）キヤノングローバル戦略研究所研究主幹より「重大リスクに直面する日米中関係の現在と今後の展望」と題して、また、12月には、渡部恒雄（公財）笹川平和財団安全保障研究グループ上席研究員より「中間選挙を踏まえた米国の今後の動き」と題して、講演いただいた。

会員のニーズを把握し今後の運営に反映すべく、各回終了後には参加者へのアンケートを実施するとともに、講演録(セミナー通報)を作成し、会員専用WEBサイトで配信した。

また、例年通り、本会の関連団体である同友クラブおよび各地経済同友会の会員にも本セミナーを案内した。2020年度より取り入れたオンライン配信が定着し、これまでに青森から沖縄まで計21の各地経済同友会会員の参加を得て、各地との連携促進にもつながっている。

（３）産業懇談会

産業懇談会（湯川智子代表世話人、内田士郎代表世話人）は、会員の相互交流、情報交換を目的とし、14グループがそれぞれの世話人および運営委員を中心として、自主運営を行っている。

本年度の定例会は、オンラインを活用しながらグループ毎に昼食会形式で開催し、メンバーからの話題提供や、さまざまな分野で活躍する外部講師の講演などを行うとともに、活発な意見交換を実施した。こうした活動に加えて、現場を知ることが目的とした見学会や、複数のグループによる合同懇談会など、多彩な活動を展開した。一方で、毎年恒例の「14グループ合同懇談会」（暑気払い）は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、3年連続で開催を見合わせた。

3月に開催した「14グループ世話人会」では、各グループの世話人による最新の活動状況の報告や、全14グループの例会に参加した代表世話人からの感想や意見・提案があり、今後の活動の活性化に向けて意見を交換した。会合終了後には、夕食懇談会を開催し、交流を図った。

年度末の登録者総数は892名となり、昨年度末より7名増加した。

各グループの活動状況は以下の通りである。

〔第1火曜グループ〕

例会を9回、懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバーの所属企業の業界の動向や取り組んでいる事業の紹介などの話題提供を行った。外部講師からは、がん研究等の医療、ウクライナ情勢、税と公助、経営戦略、LGBTQ等、幅広いテーマで講演と意見交換を行った。5月には3年ぶりに、メンバーの交流を図るための夕食懇談会を開催した。運営委員会は2月に開催し、2023年度の運営体制や活動方針について討議・決定した。

〔第1水曜グループ〕

例会を7回、見学会を1回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバーからは、所属企業・業界の取り組みや今後の戦略等について、外部講師からは、経済安全保障、ヘルスケア業界における経営戦略、地球温暖化、イスラエル情勢、アート、LGBTQ 等の幅広いテーマについて、話題提供・講演と意見交換を行った。見学会では、10月に江戸切子工房を訪問し、芸術・文化に触れる機会となった。運営委員会は1月に開催し、2023年度の運営体制や活動方針について討議・決定した。

〔第1木曜グループ〕

例会を9回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバーからの話題提供を基本とし、メンバー自身の事業の紹介や業界の動向と課題等について講演を行った。運営委員会は3月に開催し、来年度の運営方針や話題提供候補者、見学会の実施について討議・決定した。

〔第2火曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

例会では、外部講師からは、2050年カーボンニュートラル実現の道筋、2022年の経済展望、AIと人間の協業のあり方等、幅広いテーマで話題提供と意見交換を行った。このほか、10月には東京オリンピック・パラリンピック開催の舞台となった国立競技場の見学会を実施し、1月には、4年ぶりとなる新年の夕食懇談会を開催するなど、多彩な企画で親睦を深めた。運営委員会は2月に開催し、2023年度の運営体制と企画等について討議・決定した。

〔第2水曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を2回開催した。

例会では、メンバーからは、所属企業・業界の現状と展望などについて、また、外部講師からは、アートやスポーツをはじめとした幅広いテーマについて、話題提供や講演を行った。新型コロナウイルスの影響により実施を見合わせていた見学会および4グループ（第2水曜・第2金曜・第3水曜・第4火曜グループ）合同の新年懇談会を本年度から再開し、見学会では、9月に（独法）産業技術総合研究所臨海副都心センターを訪問した。また、運営委員会は8月と2月に開催し、運営体制や講師招聘の企画などについて討議・決定した。

〔第2木曜グループ〕

例会を10回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバーからは、所属企業・業界のサステナビリティの取り組み、脱炭素への挑戦、企業経営・企業改革を通じた気付きについて、また、外部講師からは、中国の政治経済情勢、江戸文化の継承、写真を通じた発信力向上、地方共創のあり方等の多岐にわたるトピックについて、講演と意見交換を行った。またコロナ禍で延期となっていた日本銀行の見学会を3月に実施した。運営委員会は2月に開催し、2023年度の運営体制、方針等について討議・決定した。

〔第2金曜グループ〕

例会を10回、懇談会を1回、運営委員会を2回開催した。

例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組みを、また、外部講師からは、ウクライナ情勢と各国（米国・ロシア・中国・日本）との関係、ポストコロナの航空業界の行方などをテーマに、話題提供・講演と意見交換を行った。また、4グループ（第2水曜・第2金曜・第3水曜・第4火曜グループ）合同の新年懇談会を1月に開催した。運営委員会は7月と2月に開催し、運営体制や講師招聘の企画等について討議・決定した。

〔第3火曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、新年懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

例会では、外部講師の招聘を基本に、医療ヘルスケア、安全保障政策、エネルギー政策、企業経営、人材育成など、幅広いテーマで講演と意見交換を行った。10月には、NTT技術資料館の見学会を実施した。2月に開催した運営委員会では、2023年度の運営方針を検討した。

〔第3水曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を3回開催した。

例会では、メンバー自身の事業の紹介や取り組みについて、また、外部講師からは、落語鑑賞、ウクライナ情勢、アフリカ開発、人的資本経営、ブランド経営等をテーマに、話題提供・講演と意見交換を行った。このほか、11月には東京オリンピック・パラリンピックの舞台となった国立競技場の見学会を実施し、1月には4グループ（第2水曜・第2金曜・第3水曜・第4火曜グループ）合同の新年懇談会を4年ぶりに開催するなど、多彩な企画で親睦を深めた。運営委員会は年3回開催し、上期・下期の活動方針、グループ活性化の施策などについて討議・決定した。

〔第3木曜グループ〕

例会を9回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバー自身の所属企業の取り組みや企業理念について、また、外部講師からは、企業経営・金融の最新動向・中国情勢・文化・スポーツ等、多岐にわたる

話題提供・講演と意見交換を行った。見学会ではNTTグループのケーブル施設「とう道」を訪問し、通常は入ることのできない地下深くのネットワーク設備等を見学した。交流促進のため10月には懇談会を開催した。運営委員会は3月に開催し、2023年度の運営体制、講師候補、見学先について討議・決定した。

〔第4火曜グループ〕

例会を10回、見学会を1回、懇談会を2回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、また、外部講師からは、ドイツ人建築デザイナーによる日本古民家の魅力、酒サムライコーディネーターによる日本酒が持つソフトパワーの可能性について、LGBTQと企業、職場でのダイバーシティについて等、幅広いテーマで講演があり、意見交換を行った。7月に実施した見学会は、警視庁を訪問した。5月は、ザ・キタノホテルで懇談会を開催し、1月は、4グループ（第2水曜・第2金曜・第3水曜・第4火曜グループ）合同の新年懇談会を開催した。運営委員会は2月に開催し、本年度の活動の総括とともに、2023年度の活動計画等について討議・決定した。

〔第4水曜グループ〕

例会を10回、見学会を1回、懇談会を1回、運営委員会を1回開催した。

2021年度は新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえて、例会の話題提供者をメンバーに限っていたが、本年度は全体のバランスを取りながら積極的に外部講師を招聘した。外部講師からはドローン、代替肉、宇宙開発、DXといった幅広いテーマで講演があり、意見交換を行った。11月に実施した見学会ではIBM量子コンピューター設置拠点を訪問したのち、同施設内レストランにて懇談会を開催し、メンバー間の交流を深めた。9月に開催した運営委員会では、2023年度の活動計画、見学会および懇談会の運営、メンバーの拡充策について討議した。

〔第4木曜グループ〕

例会を8回、見学会を2回、懇談会を2回、運営委員会を1回開催した。

見学会は5月に築地本願寺にて、10月に歌舞伎座にて実施した。例会では、メンバー自身の所属企業・業界の現状や取り組みについて、また、外部講師からは、ウクライナ危機、文化芸術政策の動向、中国経済情勢、ベンチャーデット等、幅広いテーマで講演があり、意見交換を行った。また、メンバー間の交流を深めるため、10月と1月に懇談会を開催した。運営委員会は1月に行い、本年度の振り返りや、運営委員体制、活動方針等について討議・決定した。

〔第4金曜グループ〕

例会を8回、見学会を1回、懇談会を2回、運営委員会を1回開催した。

例会では、メンバーの所属企業での取り組みや専門分野に関する話題提供を、外部講師からは、スポーツ、政治、文化、経済展望等、幅広いテーマでの講演と意見交換を行った。11月に実施した見学会では、海上自衛隊横須賀基地を訪れ、護衛艦「いずも」、潜水艦、海上作戦センター等の防衛施設を見学した。また、メンバー間の交流を深めるため、恒例の忘年懇談会を12月に開催した。運営委員会は1月に開催し、2023年度の運営委員体制や活動方針等について討議・決定した。

（４）幹事懇談会

幹事懇談会は、代表幹事、副代表幹事、幹事、監査役、終身幹事により構成され、会員相互の交流、情報交換の場として毎月第1週目の金曜日（1月、5月、8月は休会）に昼食懇談会の形式で開催している。本年度は対面・WEB併用で、合計9回開催した。

就任2年以内の副代表幹事4名、幹事5名から自身の社業や業界動向を中心に、経営理念や経営課題、問題意識などについて話題提供をいただき、質疑応答と意見交換を行った。

（５）経済懇談会

経済懇談会（宮地伸二世話人・及川健一郎世話人）は、1997年の発足以来、企業の第一線の経営者（副社長・専務・常務・執行役クラス）を構成メンバーとし、企業経営における実践的な課題について意見交換を行う自主運営の懇談会である。

本年度は、3名の新メンバーを含む16名が登録し、10月から2023年3月までに、定例会合を11回、施設見学会を1回、懇談会を3回開催した。

第1回会合において、本年度の活動テーマを「変わりゆく社会に対応するために～さまざまな視座から」と決定した。本年度は、基本的に各メンバーから、自社の経営課題や取り組み事例について話題提供および問題提起を行い、質疑応答と自由な意見交換によって議論を深めた。外部有識者からのヒアリングでは、12月に、伊藤穰一（株）デジタルガレージ取締役兼専務執行役員チーフアーキテクトより「web3がもたらす社会変革」をテーマに講演をいただき、また、3月には、宮田裕章 慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授より「DXの先にある未来社会のビジョン」と題して講演いただいた後、活発な意見交換を行った。施設見学会では、2月にAGC(株)の横浜テクニカルセンターを訪問した。年間を通じ、視点や意見、知見の交換が活発に行われた。

（６）創発の会

創発の会（吉松徹郎座長・安田結子座長）は、原則として本会入会后2年以内の会員を対象とし、委員会活動への本格的な参画のためのファースト・ステップとなる場

を提供している。

1999年1月の発足以来、本会の理念、先達経営者の気概を幹部会員から新入会員へ伝承するとともに、忌憚のない意見交換を通じて幹部会員を触発し、本会活動全体の活性化につなげることを目的として活動している。

本会合は、講演会と懇談会（カクテルパーティ）の二部構成で開催することを恒例としてきたが、2020年度と2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、懇談会の実施を見合わせた。

しかしながら、創発の会の目的に鑑み、新入会員と幹部会員の相互交流および情報交換の場として懇談会が重要であるとの認識のもと、本年度については、可能な限り実施していくという基本的な方針を、8月に開催した正副座長会議で決定した。

第1回会合は8月に開催し、新規登録メンバーと継続メンバーが相互に自己紹介を行うことにより交流を深めた。第2回以降の会合では、峰岸真澄副代表幹事より「リクルートの人材戦略～“新しい価値の創造”を目指す経営システム～」、吉松座長より「ベンチャー企業20年の歩みとアイスタイルのつぶれない話」、山口明夫副代表幹事より「IBMの変革の歴史とテクノロジーの進化」、日色保幹事より「マクドナルドの経営戦略」、金丸恭文幹事より「アントレプレナーシップと社会貢献」、山下良則副代表幹事より「人経営”はたらく”に歓びを」と題して講演の後、意見交換を行った。

本年度は、8月と1月を除き全ての講演会の後に懇談会を実施し、各回の講師を囲み交流を深めた。3月には、本年度修了者の修了式を開催した。

（7）終身幹事会

本会では、正副代表幹事が、本会の活動全般について終身幹事より意見を求める場として「終身幹事会」を設置している。

本年度の終身幹事会は、新型コロナウイルス感染防止の観点から開催を見合わせた。

（8）リーダーシップ・プログラム

リーダーシップ・プログラム（櫻田謙悟委員長）は、社会のリーダーとしても活躍し得る次世代のトップ経営者の育成を目的としており、会員所属企業の若手役員（主に執行役員クラス）で本会未入会者を対象に実施している共益事業活動である。2003年度から開始し、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020年度および2021年度は開催を見合わせたが、本年度から活動を再開し、第17期目を迎えた。これまでに合計378名が本プログラムを卒業、このうち114名が本会へ入会している。

本年度は、24名のメンバーが、2022年7月～2023年2月の間に2回の合宿を含む10回の会合を行い、優れた経営を実践している経営者やさまざまな分野で活躍されて

いる方の話を伺いながら、「リーダーシップの本質」などについて自由闊達な議論を重ねた。講師の講演に加えて、軽井沢合宿では「My Purpose と会社の Purpose をどのように同期させるか。同期しない場合はどのように行動するか」というテーマで、宮崎での総括合宿では「社長就任演説」というテーマで、それぞれ個人スピーチを行った。また宮崎合宿では、各自が実際の経営課題を持ち寄り、模擬取締役会形式のグループ討議を実施した。

幅広い業種から世代を超えて集まったメンバー同士の交流は、プログラム卒業後も長く続いており、メンバー間のネットワーク形成にも大いに役立っている。

（９）ジュニア・リーダーシップ・プログラム

ジュニア・リーダーシップ・プログラム（山内雅喜委員長）は、企業意思決定ボードのダイバーシティ実現に向けて、年齢・性別・国籍を超えた次期上級幹部の育成を目的としており、会員所属企業の部長クラスを対象に 2012 年度から実施している共益事業活動である。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、2020 年度および 2021 年度は開催を見合わせたが、本年度より活動を再開し、第 9 期目を迎えた。これまでに合計 189 名が本プログラムを卒業し、このうち 7 名が本会へ入会している。

本年度は、24 名（女性 17 名、男性 7 名）が参加し、2022 年 8 月から 2023 年 3 月までに 10 回の会合を開催した。講師には、ダイバーシティ促進やグローバル人財の育成・活用を積極的に実践している企業経営者を中心に招き、自身の経営哲学や組織マネジメント、人材育成などについて、実践的な話を伺った。講演後の質疑応答では、参加者が直面している実際の課題について、講師から具体的なアドバイスを受けた。

また、施設見学会ではヤマト運輸㈱の「羽田クロノゲート」を視察し、最先端の物流施設を見学することで、日本の経済を支える「モノ」の流れについて、理解を深めた。

さらに、各会合での学びを定着させるとともにメンバー間の議論を深め、自らのリーダーシップを醸成することを目的に、少人数でのグループ研究を実施した。3 月 24 日に開催した最終会合では、各グループの研究発表と参加者の個人スピーチを実施し、各々の参加者が、今後、実際の職場でどのようにリーダーシップを発揮していくかについて発表をした。